

# 個別機能訓練加算取得について



個別機能訓練加算Ⅱ 56単位/人  
算定要件。

①機能訓練指導員として専従する有資格者が1名以上必要。(非常勤可)

※機能訓練指導員が出勤している日のみ算定可能。出勤日は固定し、利用者様やケアマネに周知しておくこと。(自治体によって見解が変わる可能性あり。)

※看護師の場合、看護職員として入っている時間帯は機能訓練指導員としての時間に含めない。

②機能訓練士等が計画を立て、**機能訓練指導員が直接機能訓練を行う事。**

※計画作成にあたっては、機能回復を主たる目的とするのではなく、残存機能を生かし、QOLの向上に努める。

具体的には、アセスメントシートなどを活用し、利用者様のADLやIADLの状況を把握し、日常生活における課題(一人でトイレに行けない等)に対しての目標(一人でトイレに行けるようになる等)を設定の上、機能訓練を行う。

③計画の作成にあたっては、利用者様はもちろん、ご家族やケアマネの意見も踏まえ作成し、利用者様の意欲が減退し無いよう段階的に目標設定を行う等可能な限り具体的な目標を設定する事。

④類似の目標を設定している利用者様については5人程度以下を小集団に対して機能訓練指導員が直接機能訓練を行う事も可能。訓練に関しては、施設内の備品(手すり等)を使用し、実践的で反復して行える訓練とする事。また、それぞれの訓練に関して適切な時間を設ける事。最低でも週に1回以上は訓練を行う事。

※ADL (Activity of Daily Living)

食事・更衣・移動・排泄・整容・入浴

※IADL: (Instrumental Activity of Daily Living)

買い物・料理・掃除等の幅広い動作のことをいいます。手段的日常生活動作

また薬の管理、お金の管理、趣味活動、公共交通機関関連の利用、車の運転、電話をかけるなどの動作も含まれます。

⑤計画は、機能訓練指導員等が利用者の居宅を訪問した上で、個別機能訓練計画を作成し、その後三か月ごとに一回以上、利用者の居宅を訪問した上で当該利用者またはその家族に対して、機能訓練の内容と個別機能訓練計画の進捗状況等を説明し、訓練内容の見直し等を行っていること。

⑥個別機能訓練に関する記録は、従業員全員が常に見れる場所へ保管する事。

※個別機能訓練加算Ⅰを算定した利用者様もⅡに関する訓練を行った場合、同一日でも両加算を取得できる。ただし、機能訓練加算Ⅰを行う常勤専従者は、Ⅱを行う機能訓練士として兼務できず、新たにⅡの訓練を行う機能訓練指導員が必要となる。

A)まず、既存ご利用者の機能訓練に関してのニーズを今一度把握しましょう。

- ・モニタリング
- ・サービス計画書
- ・ケアプラン
- ・アセスメント

の内容から、どの様な部分に現在課題があるのか？  
を露わにします。

→先述のADL、IADLに即したニーズ

→日常生活のニーズ(在宅生活でのニーズ)

## 厚労省Q & A 47(抜粋)

利用者の居宅を訪問した上で、個別機能訓練の作成・見直しをすることが加算の要件であることから、通所介護事業所における長期の宿泊サービスの利用者は、訪問すべき居宅に利用者がいないため、居宅を訪問できない。このような場合は、加算を算定できないとで宜しいか。

→

個別機能訓練加算は利用者の居宅でのADL・IADL等の状況を確認し、生活課題を把握した上で、利用者の在宅生活の継続支援を行うことを評価するものであることから、このような場合、加算を算定することができない。

B) 現在当該課題解決に対して行っていることを整理します。

→ 普段どんなところに気を付けてケアをしているか？でもOK

同じく、サービス計画書、ケアプラン、モニタリング。  
などより抜き出します。

C) ☆大まかに項目を分けていきましょう。

○歩行、ベッドからの立ち上がり、お風呂の跨ぎ・・・

○お箸、歯磨き、洗顔・・・

→ 複数人を同時に行うに当り項目の整理が必要です！

## <実行にあたって>

### 計画書の作成

- ・ニーズ
- ・メニュー
- ・メニュー毎の時間

※居宅訪問でのアセスメントも義務化

※ケアマネへもサービス計画書と同様に提示

※3月に一回の(居宅訪問)と見直し！

→今やっていることを、一先ず「機能訓練化」するところからのスタートしましょう！

## ※留意点※

現時点では平成27年度のQ&Aが未出であり、尚且つ、加算Ⅱに十分な機能訓練の構成要件の判断基準が明確でなく、各指定権者によりバラバラであるのが現状。

平成24年度のQ&Aでは……

例えば、「自宅でご飯を食いたい」という目標を設定した場合の訓練内容は、配膳等の準備箸（スプーン、フォーク）使い、下善等の後始末等の食事に関する一連の行為の全部又は一部を実践的かつ反復的に行う訓練が想定される。

平成24年度介護報酬改定に関する関係Q&A（平成24年3月16日）問66

例えば、「1人で入浴する」という目標を設定する場合、……訓練内容については、浴室への安全な移動、着脱衣、湯はり（温度調節）、浴槽への安全な移動、洗体・洗髪・すすぎ等が想定され、その方法としては利用者個々の状況に応じて事業所内の浴室設備を用いるなど実践的な訓練を反復的に行うこととなる。

平成24年度介護報酬改定に関する関係Q&A（平成24年3月30日）問13

→少なくともニーズに関わる動作そのものに近い項目設定が1つは求められる。と考えるのが無難である。

# ※サンプルスタンダード項目サンプル



## ・食事系

食器洗い・洗濯ものたたみ・配膳・調理手伝い・嚥下体操・箸握み

## ・更衣

着脱動作

## ・排泄

ポータブルへの移乗・トイレ手順

## ・移動

段差、スロープ昇降・普段の歩行形態での歩行訓練(杖、シルバーカー等)・散歩・バースクワット・椅子に座ったままの上肢下肢体操

## ・入浴

洗体動作(タオル)・跨ぎ練習

## ・整容

歯磨き(口腔ケア)、化粧、洗顔、髭そり

## ・IADL系

買い物(選択、決定)・記憶整理(カード、回想等)・掃除

※既にやっている。すぐに始められ、より多くの方に当てはまり易いものを抜粋